

100

つなぐ「奉仕の心」これからも

2024年向陽高等学校創立100周年



風に向かって

学校法人向陽学園

歴史編集室発行

TEL0957(5)3210

2024年へ向けて「後期開始」!

向陽高校は創立100周年へ、そして新たな学園創設に向けて動き始めています。
生徒・職員一丸となって盛り上げ、力強い息吹を吹き込みましょう。



R5.4.17:ドローン撮影

いま「高校」では!

「後期始業式・交通講話」



10月3日(火)、体育館で後期の始業式があり、その後交通講話を実施しました。始業式では、校長先生が生徒に「高校生活の中で様々な経験をし、それをすべて将来の糧として、社会に出てからも奉仕の心を持ち、周囲に感謝の心で接することができる立派な人間に成長していった欲しい。」と述べられました。



「交換留学」

オーストラリア「サマービルハウス高校」

9月23日(日)、向陽生2名が福岡空港から台湾桃園国際空港経由でオーストラリアブリスベン空港へと出発しました。現地ではそれぞれのホストファミリーのお出迎えがあり、10月3日(火)からサマービルハウス高校の第4学期が始まりました。



「遠足&清掃活動」

9月26日(火)、遠足を行いました。岳ノ木場公園を目的地に片道3kmの距離を歩きました。下山前に天候が不安定になり、公園の清掃活動を行うことは叶いませんでしたが、往復路では道に落ちているごみを拾う生徒の姿も見られ、本校の建学の精神「奉仕」の心を見ることができました。



「エステティック科検定に全員合格」

エステティック科3年生全員が、メイクアップ技術検定2級に挑戦し、見事全員合格しました。2級は基本のフルメイク技術ができる上級レベルの検定です。おめでとうございます。



「看護専攻科・大村市防災訓練参加」

9月24日(日)、中地区公民館の敷地内で、大村市主催の防災訓練が行われ、看護専攻科1年生11名、2年生9名が参加しました。



いま「学園」では! こうようようちえん

「明るく なかよく 元気よく」

運動会(野岳湖グラウンド)9月23日

～さあいくぞ! パワー全開向陽キッズ!!～



「向陽高校保育科の生徒もお手伝い!」



長崎リハビリテーション学院

《言語療法学科3年生》



臨床実習と実習報告会を終えた3年生、次はいよいよ国家試験に向けた勉強の日々が始まります。それに向けて国家試験決起集会が行われました。



誰かの「生きる」をささえるひとになる



「雨の中、保護者の皆様お手伝いありがとうございました。」

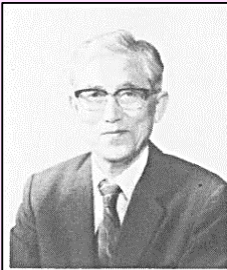


<シリーズ>2024年「向陽高等学校創立100周年」へ向けて



10月25日 慰霊の心を

下の記事は、向陽高校の前身である「大村女子職業学校」の生徒が学徒動員で作業中、昭和19年10月25日の大村大空襲で若き命を失いました。その合同慰霊祭(昭和55年10月26日大村慰霊塔公園)での、学徒報告隊代表として戦禍を共にした卒業生野田丸枝(旧姓松田:昭和20年本科第21回卒)さんの慰霊の言葉です。私達は、学園が2024年100周年を迎えるにあたり、15、16歳で亡くなられた諸先輩方の尊い命の犠牲の上に今があることを忘れてはいけません。



昭和一九年一〇月二五日、大村の第二一海軍航空廠(しよう・飛行機の製造修理場)が米空軍の爆撃をうけ、東洋一を誇った広大な施設が一時間余で壊滅的に破壊された。この時三〇余名の戦死者が出た。当時学徒動員とか、挺身隊とかいつて、大村女子職業学校(向陽の前身)ほか大村、諫早、島原など県内および県外の学校から慰霊塔公園で行われ、各校の同窓生も県内県外から参列しておられる。昭和六十一年二月向陽学園ニュース第2号より

学校からも多数の上級生が先生に引率されて空襲で作業をしていたので、生徒からも多数の犠牲者が出た。本校では本科三年松尾恵美子、平湯辰枝、四年小川良子、向井美代子さんの四名が十五、六歳の若さで散華されたのである。毎年十月第四日曜日に、殉職者の慰霊祭が慰霊塔公園で行われ、各校の同窓生も県内県外から参列しておられる。

“太平洋戦争と向陽学園”

— 四人の御霊・安らかに —

向陽学園常任理事 宮川 龍 光

慰霊のことば

動員生活も六ヶ月目となりやっと仕事になれ、充実した毎日を送っておりました矢先、昭和19年10月25日の大空襲は突如として私達の運命の転機をもたらしたのでありました。数時間に及ぶB29の波状攻撃もやっとおさまり、部品工場の私達は友の無事を確かめ合い手を取り合ってうれし涙を流しましたが、後になって機械工場の小川良子さん、向井美代子さん、下級生の平湯辰枝さん、松尾恵美さんの四名の方々がお亡くなりになられた事の報せに皆茫然として悲しみの涙を新たにいたしました。共に語り合い将来を夢見ていた友を亡くした悲しみ悔しさを30数年経た今日でも忘れること

なく一人で涙しております。当時のこの思いは何時までも私達の胸に残っております。貴女方をいつくしみお育てになられましたご両親様の胸の中に想いをはせます時、子を持つ身になった今、しみじみとその悲しみが如何に深いものであったかを知ることが出来ました。貴女方の尊い犠牲の上に私達は人生の半ばすぎ幸せな毎日を送らせて頂いております。その尊い死を無駄にしないよう目まぐるしい世界情勢の中、声を大にして平和を訴え続け余生を意義深く送りたいと思っております。この緑豊かな思い出の地大村で安らかにお眠りくださいませ。

「積雲を つと光り去る銀翼に

身構えることもなき 今日平和を」

(昭和56年3月向陽新聞第59号より一部抜粋)